



④ 大型ショッピングセンターが建ち並ぶ嶋地区



④ ロードサイド型専門店等の台頭

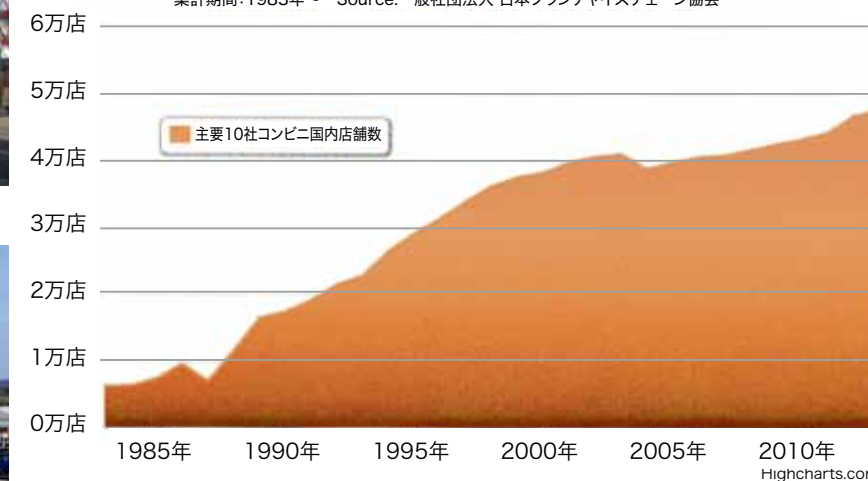


④ ロードサイドのショッピングタウン



④ 駐車場が完備されたコンビニエンスストア

【主要10社】コンビニエンスストア 国内店舗数 推移
集計期間：1983年～ Source：一般社団法人 日本フランチャイズチェーン協会



ミニ知識 19

今も残る 街の駄菓子屋

駄菓子屋はお菓子や玩具のあるお店で、子どもたちのコミュニティの場でもありました。

自動販売機もコンビニエンスストアもなかった時代は、大人もアイスクリームや清涼飲料水を求めていました。通学路にあるパン屋やよろず屋の一角は駄菓子屋化している店も多くありました。



11 車社会の街を探る

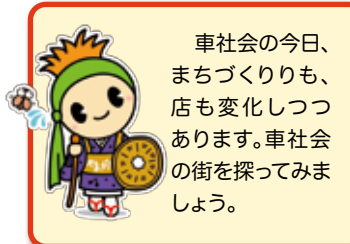
昭和後期～平成

郊外に広がる街

上の写真は、大型ショッピングセンターが建ち並ぶ山形市の北部に広がる嶋地区です。

どの店も駐車場が完備され、週末は多くの家族連れで賑わっています。このような大型の店舗は、国道13号線などの幹線道路や市南部や北部の新興住宅地に広がっているのが特徴と言えます。

車社会の今日、広い道路が整備された郊外の住宅地に移り住む人が増えると同時に、大型ショッピングセンターも建ちます。買い物に来る客は、近くの住民だけでなく山形市全域及び周辺の市町村からも集まるようになります。さらに、レストランや専門店なども建ち並び、家族連れの車で賑わう大規模商店街となっています。



車社会の今日、まちづくりも、店も変化しつつあります。車社会の街を探ってみましょう。

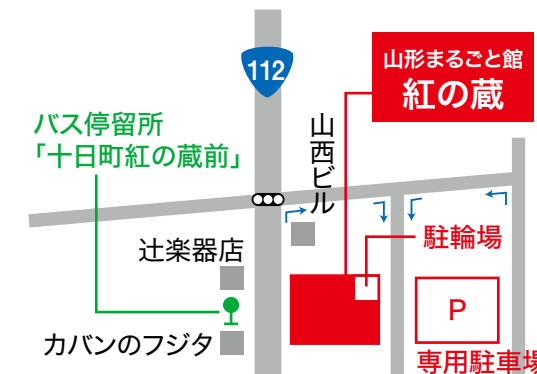
変化していくお店

一家に一台どころか、大人一人に一台という車社会の今日、店の形も大きく変化してきました。まず、従来は市の中心商店街に店舗を構えていた洋服屋や電気屋、本屋などの専門店が幹線道路を中心としたロードサイド型になってきています。また、大型スーパーを中心に複数の大型店舗が集合する「ショッピングタウン」も増えてきています。

そして、何よりも急激な広がりを見せているのがコンビニエンスストアです。日本フランチャイズチェーン協会の調査によると全国で5万店に近づく勢いで増えています。駐車場完備の24時間営業は、住民にとってなくてはならない地域のお店となっています。



市道七日町片道コミュニティ道路



駐車場が完備された「紅の蔵」



ミニ知識 20

「キャブシステム」の素敵な通り

山形の七日町商店街等の通りは「キャブシステム」で、素敵な通りになっています。「キャブシステム」とは、町を歩いていると目につく電気や電話の電線などを一つにまとめて地面の下に埋めるものです。

それによって、電柱のない美しい街並みに変わり、安全で快適な通行ができる道路になっています。



電柱のない「キャブシステム」の道路

人と車と自転車が共存する町

上の写真の場所は山形中央中央郵便局前の人と車と自転車が共存できる「ほっとなる通り」です。平成24年12月に完成した、十日町、本町、七日町商店街に続く素敵な通りです。自転車は、安全に通行できるよう、両側の自転車道を矢印の方向に進む歩通行となっています。また、所々に、車の乗り降りや荷物搬入のため、通りの両脇には幅1.5m、長さ9～18mの停車帯が作られています。

市道七日町片道コミュニティ道路は山形市を流れる馬見ヶ崎川を表現して蛇行しており、車もスピードを出せません。歩道には市の花であ

る紅花をイメージした色を使い、無散水消雪装置を設けています。また、歩道内には通りに潤いをもたらす泉水盤や12個の星座盤を設置し、コミュニティ空間としても利用できる道路になっています。整備後は、路上ジャズやフリーマーケット、路上結婚式も行われていました。

山形まるごと館「紅の蔵」は、紅花商人であった長谷川家の旧家屋及び土蔵5棟を活かして作られた山形の魅力をまるごと発信するアンテナショップになっています。車社会に対応して、東側には、「おいしさ直売所」とセットになった広い駐車場も完備しており、連日多くの人で賑わっています。

ミニ知識 21

七日町新道が無散水消雪道路に

2012年の12月1日より、市道である七日町新道が無散水消雪道路になりました。

このシステムは、舗装帯の中に放熱管を埋設し、この放熱管の中に地下水を送って、地下水の持つ自然エネルギーを効率よく路面に伝えることにより、雪をとかし、路面の凍結を防ぐ最新の消雪方法です。

路面に散水がないため、降雪時の通行・歩行が極めて快適であり、なおかつ舗装面の傷みも少なくなります。

